



がん検診

佐藤 一郎



問 がん検診については今までも人間ドックの助成制度の提言をしてきた。国も自治体が行うがん検診率の目標を50%から60%に上げる計画を発表している。がんは早期発見、早期治療が肝心である。仙台市では、内視鏡検査を取り入れ発見率が高まっていると伺っている。胃がん検診の手法と受診率について伺う。

所と伺っています。

内視鏡検査を協議しては

健康増進課長 胃がん検診は、集団検診で胃部エックス線検査（バリウム検査）を実施しています。受診率は令和3年度23・4%です。

問 これまで「内視鏡検査は集団検査で難しい、地元の医師会と調整して研究したい。」と答弁があった。地元医師会との協議は現在どの方向に向かっていているのか。

健康増進課長 国の指針によりまずと胃部エックス線検査、または胃内視鏡検査いずれかの検診を実施、エックス線検査は40歳以上で1年に1回、内視鏡検査は50歳以上で2年に1回と示されています。

沼市医師会の役員と意見交換をさせていただきました。胃がん検診の内視鏡検査員の確保や画像のダブルチェック体制、精度管理体制の構築などクリアすべき大きな課題があり、医師会と実施の可能性について協議を進めています。

健康増進課長 胃の内視鏡検査は7カ所、大腸の内視鏡検査は6カ

問 今後、内視鏡検査ができる体制は時間的にどのように考えているのか伺う。

健康増進課長 胃の内視鏡検査は7カ所、大腸の内視鏡検査は6カ

健康福祉部長 実施の可能性についてはなかなか具体的に難しいですが、最短でも2年から3年を見込んでいます。

◎その他の一般質問
「住み続けたいまち」に向けた施策



ハナトピア岩沼

大村 晃一



問 ハナトピア岩沼の活用基本構想づくりをスタートさせ、10月にはある程度の方向性を示したいという答弁だったが、どのような方向性になったのか伺う。

持てると思うがどうか。

市民経済部長 メインターゲットを子どもとファミリー層とし、コンセプトは、子どもたちが遊びを通して自然を体感しながら五感を育み、人と地域を結ぶ複合施設とした方向性で検討を進めています。

魅力が維持できる施設に

問 農業に関することは、どのような整備をして取り入れていくのか伺う。

問 リニューアルまでの期間を逆算しながら進めていくと思うが、長く魅力が維持できる施設になるように、今後の活用として、農業振興と子どもたちの遊び場という方向性を、しっかりとした計画の下で、施設整備や維持管理を行わなければならないと思うが見解を伺う。

農政課長 既存の産地直売所や、市民農園の機能に加え、新たに農産物加工室やカフェなど、市民交流が促進できるように、整備していきたいと考えています。

市長 検討委員会を設け、子育て中の皆さま、農業者の皆さまからも幅広くご意見をいただきながら、その中で今検討を進めており、市民に長く愛される施設を目指して、リニューアルや維持管理体制を最適なものにしていきたいと考えています。

問 子どもたちや家族で、花や野菜を植えたり、収穫をしたり、自分たちで育てるスペースを設け、収穫した野菜などは、施設で開催するイベントで販売をしたり、リニューアル後の開催の有無もあるが、千人鍋などに子どもたちが作った野菜なども使っていると、関わりも

◎その他の一般質問
敬老のついで